



2026年6月15日

報道関係各位

上智大学と板橋区教育委員会が連携協定を締結

－「ソフィアにほんごプロジェクト」を起点に、外国につながる子どもへの日本語支援を推進

上智大学（東京都千代田区、学長：杉村 美紀）は、2026年6月12日、板橋区教育委員会（教育長：長沼 豊）と、学術研究の発展および教育施策の充実を目的とした事業連携協定を締結しました。本協定は、令和8年度「東京都と大学との共同事業」に採択された「ソフィアにほんごプロジェクト」を背景とし、外国につながる子どもへの日本語教育支援を軸に、大学・自治体・学校が連携した教育モデルの構築を目指すものです。

プロジェクトについて

近年、グローバル化の進展により、日本語を母語としない子どもたちが増加し、学習や学校生活への適応が課題となっています。板橋区においても、外国につながる児童やその保護者の増加を背景に、日本語支援や多文化理解の必要性が高まっています。

「ソフィアにほんごプロジェクト」をリードする上智大学短期大学部の宮崎幸江教授は、同短期大学部が神奈川県秦野市において約40年にわたり取り組んできた、外国につながる子どもたちへの日本語教育支援を牽引してきました。こうした実践的知見と、本学が有する言語教育・教育学分野の専門的知見を基盤に、本プロジェクトでは大学生による学習支援を軸とした日本語教育の実践とモデル化を進めます。本協定は、こうした知見と実践を地域において具体化するものです。

主な取組みと今後の展開

協定に基づき、外国につながる子どもの支援に関心を持つ学生が、板橋区立小学校において授業内に入り込み、日本語面のサポートに加え、教科学習の理解を支える支援を実施します。2026年度は試行的に支援活動を開始し、春学期・秋学期それぞれにおいて複数回の継続的な関わりを通じて、児童一人ひとりの理解状況に応じたきめ細かな支援を行います。学生は教育現場に参画し、教員による事前講義や巡回指導、活動の振り返りを通じて支援の質を担保します。次年度以降は、今年度の実践をもとに、学校と地域をつなぐ支援体制の拡充を図るとともに、「大学主導・地域連携型支援モデル（ソフィアモデル）」の確立を目指します。

なお、活動の成果はシンポジウム等を通じて広く発信する予定です。また、本プロジェクトで協働する早稲田大学と連携し、一般向け公開講座「外国につながる子どもの教育を考える」も開講。研究と実践の両面から、具体的な事例や課題についてともに考える機会を設けます。

協定締結によせての杉村美紀学長コメント

「このたびの協定締結により、学校での学習支援ボランティアや地域連携をさせていただけることになり大変光栄に存じております。板橋区ならびに地域社会の皆様のご理解とご配慮に感謝申し上げますとともに、本学としても、多文化共生を考える貴重な学びと経験の機会として、学生たちと共によりしっかりと取り組ませていただく所存です」

※本資料の配布先記者クラブ：都庁記者クラブ、文部科学記者会

報道関係のお問合せ：上智学院広報グループ（sophiapr-co@sophia.ac.jp）

調印式の写真データをご希望の方は、上記までお問い合わせください。